

SOTO 禅インターナショナルの「塔婆供養で植林支援」には、事業初年度より多くの賛同をいただき、2008 年中に実にアカマツの苗木 2 万 5 千本相当の支援をいただきました。

植林が行われた場所は、モンゴルの首都・ウランバートルから北へ向かい、ロシア国境に程近いセレンゲ（Selenge）県 Altanbulag 郡トジンナルス（Tujiin nars）地域であります。



モンゴルにおける森林面積は国土の 8 パーセントであり（1998 年・モンゴル自然環境省）国土面積の 8 % に過ぎません。

日本の森林面積は約 70%（2000 年、林野庁）ですから、いかに少ないか、逆に日本がいかに緑豊かということがわかります。

さらに、その森林も違法伐採や、違法伐採に伴い引き起こされる人為的な森林火災（焚火やタバコ、故意の放火など）により危機的状況にありました。

特に 1985 年・89 年・92 年・96 年には大規模な森林大火災が発生しています。

トジンナルス地域では、特に少雨と乾燥という条件が重なってしまった 1996 年の火災が甚大であり、実に従前の累計火災被害面積の 12 倍を越える森林（＝トジンナルス地域の約 70%）が一度に失われてしまいました。

実際に現地ではこのような焼け焦げた木を数え切れないほど見ました。

さらに、樹齢 100 年を越えるものも、強烈な風により何本も根元よりなぎ倒されてしまっています。

このような状況の中、モンゴル国政府による植林事業は 1973 年からスタートし、2002 年からは年間 2000-2500ha の植林を目標としています。

しかし、なかなか計画通りに進まない現状があるようです。

GNC では現地の森林・動物センターの所長・ジャムスラン氏との関係を深め、2004 年 5 月より「GNC 共存の森づくり」に取り組んでいます。

SOTO 禅インターナショナルの植林支援に寄せられた苗木も、この「GNC 共存の森」に植樹されました。

一本の木を植えると経文を 1,000 回唱えるのに等しい良いこととなる。

二本の木を植えると、次の世代にまで良いことが及ぶ

（トジンナルスの森を護る「森林・動物センター」所長・ジャムスランさんの言葉より）

塔婆供養で植林支援事業は、これからも引き続き継続していきます。
皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



(看板には塔婆供養で植林支援に賛同いただいた方々のご芳名が記されています)

豊かな緑が次世代に受け継がれますように